2005年5月24日
八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 571-2299
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp

さわやか

第１００号
記念特集号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

「さわやか」新聞 １００号記念 特集号

「さわやか」新聞発行 一〇〇号は素晴らしい

福岡県済生会
八幡総合病院
病院長
合屋　忠信　様

通院介護センター「さわやか」が開設されて、一〇年になるとお聞きしました。透析患者さんの通院困難が重要な問題になりはじめたのは、「さわやか」の開設のさらに一〇年程前だったように記憶しております。当時入院の慢性透析患者さんだけを対象とする施設を作るという計画も聞きました。そんなことが成功するのかなと、おおいに疑問に思いました。家から遠く離れた施設に患者さんを収容するというのは、人権無視であり、希望する患者さんは殆どいないに違いないと思いましたし、なんとか社会復帰のお手伝いをしたいと頑張っている医療スタッフにとっても意欲をそがれる発想でした。誰だって家族と一緒に生活したい、友人のいる土地に住みたい、入院はしたくありません。さすがにこの構想は実現しませんでした。一〇年前ということになりますか、江頭さんがまだ福腎協副会長に就任される前のことですが、透析患者をボランティアで送迎するシステムを作るので、事務所を貸してほしいと相談にこられました。

私共の病院はずっと治療中心で患者団体の活動には貢献していなかったので、喜んで賃貸することにしました。

事業の発展は皆様ご存じの通りで、江頭理事長の指導によるところ大でございます。最初から北九州市とは密接に相談され、いち早く法人化に取り組まれ、他の地域の同様のシステムの立ち上げをいくつも指導され、アクティブなリーダーとして活躍されています。

機関紙「さわやか」はわたしの手元にも毎月届きますが、毎月発行され一〇〇号になると聞いて、そのエネルギーに敬意をささげます。

この事業を支えるボランティアの方々の拠り所となり、魅力の源となっているに違いありません。「さわやか」の事務所を訪ねますと二人の職員がおられ、「さわやか」の現況を話していただけます。事業が順調にいっていると聞けばほっとします。

「さわやか」新聞 一〇〇号を祝して

医療法人真鶴会
小倉第一病院
理事長・院長
中村　定敏　様

通院介護センター「さわやか」の機関紙の百号記念おめでとうございます。

私は昭和四十三年、済生会八幡病院の腎センター発足に参画して以来、血液透析に従事して、かれこれ三十七年になります。血液透析がまだ自費で行われていた時代からです。リッチなごく一部の患者さんしか受けられない治療でした。

血液透析に従事する医師や看護師はこの治療法を大事に育て、世界一の治療成績を出し、わが国を透析機器・ダイアライザーの世界の生産基地にまで育てました。

透析患者さんも血液透析の発展のためには並々ならぬ努力をされました。わけても福岡県の皆さんの働きがどこより早く、大きかったと言えます。

透析患者さんの高齢化が進み、通院が困難な方が増えてきました。できる限り家族と一緒に暮らしたいという考えの患者さんにとっては、通院事業は真の助けになっています。

県立病院が全て民営化されるのは経済的理由によるものです。福岡県が累積赤字の限界で、もうこれ以上耐えられないと判断したからでしょう。

民間病院も毎年減少してきて入院ベットが減少してきております。通院介護事業の役割が今後益々重要になってきます。従事されている方々に深謝するとともに、事業の更なる発展をお祈りします。

「さわやか」新聞 一〇〇号発刊を記念して

福岡県腎臓病患者
連絡協議会
会長
塩屋　利且　様

通院介護センター「さわやか」一〇〇号発刊を記念し、心からお祝い申し上げます。

思いますと、通院介護事業「さわやか」の設立と共に、平成八年十二月「創刊号」を始まりとして、「さわやか」のあゆみも一〇年目に入り、ここに一〇〇号発刊を迎えられましたことは編集を担当した皆様と共に大変喜びとするところであります。

編集スタッフのご苦労に改めて感謝申し上げます。

「さわやか」新聞は事業所の活動はもとより地域の特性を生かし、身近な問題を的確にいち早くとらえ、患者の皆さんやボランティアの皆さんに伝え、情報源としても重宝がられてまいりました。

情報社会といわれる今は、機関紙は私たちにとって唯一の情報入手手段でもあります。

これからも、私たちが知りたい情報をいち早く伝えていただき、患者はもちろんボランティアの皆さんとの「かけはし」となることを希望いたします。

2005年5月24日
八幡事業所　Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所　Tel.Fax 571-2299
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp

さわやか

第１００号
記念特集号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

「さわやか」新聞 １００号記念 特集号

「さわやか」新聞 百号発刊を記念して

特定非営利活動法人
通院介護センター
「さわやか」
理事長
江頭　博幸

「さわやか」新聞が百号迎えました。月一回の発行ですから、百号を迎えるには九年の歳月がかかります。自画自賛になりますが、良く頑張ったと思います。「継続は力」です。

さて、「さわやか」新聞は、当初、ボランティアさんを激励すると同時に、全国の通院送迎をしている仲間、各界の関係者に、毎月の出来事をお知らせする事を、目的に始めました。とくに、送迎ボランティアというのは、地味で孤独な仕事で、一人でコツコツとするものです。災害時のボランティアのように、皆で協力して、皆で喜びを分かちあえるものではありません。

その意味で、孤独な活動をボランティアの皆さんに報告する事により、激励になればというのが、創刊の主旨でした。それが、両面刷りになり、カラー印刷に発展してきました。

「さわやか」新聞は、お陰様で、当初の目的は果たせたと思っています。また、読者の皆様から、色んな反響が寄せられます。北海道をはじめ、全国各地から、便りをいただきます。全国の仲間が読んでくれていると思うと、嬉しく思い、激励もされます。

これからも、「さわやか」新聞発行に全力を挙げて努力邁進する所存です。今後とも「さわやか」新聞を、末永く見守っていただくよう、お願い致します。

事務局より ごあいさつ

平成八年十二月より毎月発行してまいりました、「さわやか」新聞も今回で一〇〇号となりました。その間、たくさんの皆様にご協力をいただきながら、発刊することが出来ました。

かかわっていただいた全ての皆様に心から感謝申し上げますと共に、これからもご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い致します。

今回、「さわやか」新聞一〇〇号発刊にあたり各界の方々に祝辞を頂きましたので、ここに掲載させていただきます。

「さわやか」新聞 一〇〇号 おめでとうございます

北九州市
市議会議員
戸町　武弘　様

私の父も透析をしていましたので、透析患者の方の苦しさ、家族の方々の大変さを実感しています。

又、それを支えて下さる多くのボランティアの皆様の心からのご支援が透析患者の方々を心強くさせていることも深く感じております。

私も市議会議員として、皆様のお力になれるよう今後とも頑張ってまいりたいと思います。

「さわやか」の今後益々のご発展とご躍進を心よりお祈り致しますとともに、会員の皆様、ボランティアの皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

「さわやか」新聞 一〇〇号に寄せて

北九州市
保健福祉局
障害福祉課
課長
松尾　大輔　様

「さわやか」新聞一〇〇号、おめでとうございます。

通院介護センター「さわやか」は、腎臓機能に障害がある方がお互いに支えあうことを中心に、ボランティアの協力もいただきながら、人工透析を受けられる際の送迎活動をされております。

このように、障害者自身と市民が共同で障害者の生活を支えることは、障害者福祉活動の一つのあり方として、とても意義があると考えます。

こうしたことから本市では、障害者小規模共同作業所として平成八年度から補助を行っており、また、障害者の移送サービスのあり方について意見交換をしています。

さて、本市では、現在の「北九州市障害者施策推進基本計画」が平成十七年度までの計画期間であるため、その後の計画策定に向けて、江頭理事長も委員である「（仮称）北九州市障害者支援計画策定委員会」において論議していただいているところです。策定に当たっては、「保健・医療・福祉サービス基盤の整備と連携」「自立生活のための地域基盤整備」「雇用・就業機会の確保と拡大」等が大きな課題になるのではないかと考えています。

一方、障害者自立支援法案及び関連改正法案が国会に上程されており、平成十七年十月から段階的に、公費負担医療制度の見直しや障害者福祉サービスの再編といった障害保健福祉施策の改革が実施される予定です。

このように今年度は、今後の障害者福祉のあり方を決める重要な時期になりますので、「さわやか」の役員・会員・利用者・ボランティアの皆様におかれましても、さまざまな機会でご意見をいただきたいと思っています。

最後になりましたが、通院介護センター「さわやか」のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念し、私からのお祝いとさせていただきます。